

# 令和5年度 事業報告

自 令和5年4月 1日

至 令和6年3月31日

## I. 会員の状況

令和6年3月31日現在の正会員数 31社（令和5年3月31日31社）

令和6年3月31日現在の賛助会員数 44社（令和5年3月31日41社）

## II. 会議

### 1. 総会

◇第12回通常総会 令和5年6月9日 <場所：ザ・キャピトルホテル東急>

【出席31社、うち委任状（書面表決）提出によるみなし出席3社】

第1号議案 令和4年度事業報告

第2号議案 令和4年度収支決算報告の承認

第3号議案 役員改選

### 2. 理事会

◇第77回理事会 令和5年4月27日 <場所：（一社）日本橋梁建設協会>

第1号議案 第12回通常総会（案）及び第78回理事会の開催（案）について

第2号議案 第12回通常総会議案書(案)について

第3号議案 役員候補者の推薦（案）について

第4号議案 登録橋梁基幹技能者講習事務の更新について

◇第78回理事会 令和5年6月9日 <場所：ザ・キャピトルホテル東急>

第1号議案 会長の選定について

第2号議案 副会長、専務理事の選定について

第3号議案 働き方改革特別委員会の設置について

第4号議案 各委員会執行体制について

第5号議案 顧問の委嘱について

◇第79回理事会 令和5年7月27日 <場所：（一社）日本橋梁建設協会>

第1号議案 橋の相談室長の交代について

第2号議案 賛助会員の入会について

第3号議案 3.11 伝承ロード研修開催について

◇第80回理事会 令和5年9月21日 <場所：（一社）日本橋梁建設協会>

審議案件なし

◇第 81 回理事会 令和 5 年 11 月 30 日 <場所：(一社) 日本橋梁建設協会>

第 1 号議案 令和 6 年新年交礼会次第 (案) について

第 2 号議案 謝金等に関する規程 (案) について

第 3 号議案 橋梁架設工事の事故防止対策<追補 2> (案) について

◇第 82 回理事会 令和 6 年 1 月 25 日 <場所：(一社) 日本橋梁建設協会>

第 1 号議案 賛助会員の入会について

第 2 号議案 橋建協 60 周年記念行事 (案) について

第 3 号議案 令和 6 年度行事予定 (案) について

◇第 83 回理事会 令和 6 年 3 月 21 日 <場所：(一社) 日本橋梁建設協会>

第 1 号議案 令和 6 年度事業計画 (案) および令和 6 年度収支予算 (案) について

第 2 号議案 公社) 雪センターの入会 (特別会員 A) について

第 3 号議案 橋建協/令和 6 年度海外視察について

### III. 常設委員会の活動報告

#### 1. 企画委員会

令和 5 年度はようやく新型コロナウイルス対策が緩和され、以前と同じとは言えないまでもかなりその前の状態に戻って活動ができるようになった。一方鋼材費や人件費の上昇に伴う発注案件数の抑制とも思われる中で発注重量の増加にはならず、各社苦しい経営状況は続いている。

企画委員会は協会の事業計画の企画立案や組織運営全般を担う委員会として、各委員会の横断的な課題や現状行わなければならない課題への対応のため、重点となる活動テーマを策定し意見交換会等を通じて発注機関に対し要望活動、提言活動を行った。

#### (1) 意見交換会 (幹部級)

各委員会から出された課題や意見等を協議し、令和 5 年度の重点活動テーマは、1. 現場安全対策の取組み (安全性の向上) 2. 鋼橋事業の進化と継承 (未来を守る強靱化事業の推進) 3. 鋼橋 DX の推進 (生産性の向上) 4. 鋼橋メンテナンス事業の推進 (持続可能な環境整備) 5. 更なる海外展開の推進 (各種リスク管理の下での実施) とした。なお、今年度は年度初旬から死亡事故が発生したことにより、安全対策を別項目としている。

国土交通省本省との意見交換はこれまでの道路局だけではなく、今年度初めて総合政策局海外プロジェクト推進課では天野海外プロジェクト審議官、大臣官房技術調査課では吉岡技監と林技術審議官にご参加いただいた。

全国直轄 10 局の局長クラス意見交換会は例年通り 8 月末より 11 月中旬までの間で全局対面にて行われ、協会のおかれている状況や上の要望事項を説明した。回答はピアレス橋梁採用への前向きな発言、不調・不落対策への対応促進など有益な内容があった。

直轄 10 局との意見交換には昨年度より管内の都道府県および政令指定都市に参加いただいているが、今年度は中長期の発注計画および週休二日制の状況について口頭もしくは書面で回答を得ることができた。

高速道路会社幹部意見交換会は例年通りNEXCOS3社および首都高速、阪神高速の5社に対して実施したが、今年度は実務者意見交換と要望内容を連動させて行った。高速会社からは働き方改革についての意見を紹介する様要望があり、その点について議論を行った。

## (2) 政府等への要望活用

- ・ 予算・税制に関する要望書、防災・減災、国土強靱化対策の推進及び公共工物品質確保に関する要望書を議員連盟等に提出

※来年度税制に関する要望について検討を行う予定

## (3) WG 活動など

### ①重点活動テーマ検討 WG

前年度の結果概要を踏まえ重点活動テーマを取り纏め、企画委員会および理事会にて承認された。

### ②鉄道橋 WG

JRTTとの要望により災害対応に関する意見交換等を実施、今後も他項目でも実施予定。

### ③その他

- ・ 日本道路協会に電子図書利用マニュアルについての意見を提出。
- ・ 本州四国連絡橋株式会社とも意見交換について要請あり、実施すべく調整中。
- ・ 令和6年能登半島地震に対し、1月1日災害対策本部を設置、今後対応を行う。

## 2. 広報委員会

令和4年度はコロナ禍のため広報活動には様々な制約があったが、令和5年度はコロナも終息してきたため積極的な広報活動を展開することができた。

### (1) 橋梁事業全般への理解促進、魅力の発信

#### ○地区事務所を中心に、イベントへの積極的参加

- ・ 世間一般の方々へ、鋼橋の重要性と専門業者として対応していることをアピール。

### (2) 意見交換会（実務者）

#### ○実務者意見交換会（直轄8局、高速道路会社5社「NEXCOS3社、首都高速、阪神高速」）

- ・ 入札契約や受注後の課題の他、働き方改革等の対応に関し議論を実施。
- ・ 令和元年から5年連続で年間発注量が20万tを下回っていることから、鋼橋の積極的採用及び高速道路の4車線化推進を要望。
- ・ 近年多発している豪雨による橋の流出対策として“ピアレス”橋梁（河川内橋脚数を減らした橋梁）の採用を要望。今後、直轄河川部や各県への採用促進活動を実施予定。
- ・ 特に、高速会社とは働き方改革を目的とした「書類・検査の簡素化」「詳細設計の期間と費用の問題」について議論を実施。令和5年度から更に議論を加速化していく予定。
- ・ NEXCOSに関しては、各社の支社との意見交換会も実施。

#### ○地方公共団体との意見交換会（群馬県、静岡県、三重県、石川県、広島県）

情報交換を含め、橋梁工事に関する議論を実施。

### (3) WGなど委員会活動（広報委員会主幹とする活動）

#### ○戦略広報WG

- ・ 高校・中学生徒、小学児童へ、格好良さをアピール。

協会外アドバイザーを含む若手社員15社15名により、今後の協会広報について検討継続中。

高校・中学生徒、小学児童をターゲットに、親しみやすい広報とするにはどうするか、今までにな  
い自由な若い発想を検討（インスタグラム・ツイッター、講座イベント実施、グッズ展開など）。

・ イベントに使用するグッズの作成。

#### ○ブリッジトーク

- ・ 11月に賛助会員4社との意見交換、対面にて実施（東京本部）。
- ・ 1月に「持続可能社会へのブリッジマネジメント」、対面にて実施（東京本部）。
- ・ 3月に阪神高速若手技術者との意見交換、対面にて実施（大阪会場）。

#### ○虹橋WG

- ・ 9月に虹橋87号発刊、特集は 1:鋼橋におけるDX推進への取り組み、2:この橋をみよ！沖縄事務所推薦。

#### ○業界セミナー

- ・ 関連学部専攻中の学生へ、鋼橋業界に就職するためのリクルート支援を含めた宣伝活動実施。  
対面実施：法政大学、日本大学理工学部、九州建設フォーラム

#### ○橋梁年鑑WG

- ・ 令和6年度橋梁年鑑発行のため、グラビア選定やデータチェックを実施。

### (4) 部会活動

#### ○製作積算部会

- ・ 鋼橋製作（新設）積算に係る調査・研究・提案及び地区事務所への対応。
- ・ 製作工数等実態調査に基づく製作工数等の改定へ向けての提案。

#### ○現場施工積算部会

- ・ 鋼橋架設（新設）積算に係る調査・研究・歩掛策定および地区事務所への対応。
- ・ 橋梁架設用機材損料に係る調査・解析・機械経費委員会対応。
- ・ 積算講習会講師対応

#### ○間接費積算部会

- ・ 現場間接費に係る調査・研究・提案及び地区事務所への対応。
- ・ 現場諸経費率の維持・向上の為、橋建協会員に「間接工事費等諸経費動向調査説明会」の実施。

#### ○契約制度部会

- ・ 各発注者との意見交換会用として、客先別に入札制度を調査分析、要望案等を作成。
- ・ 発注見通し公表の統一検討、設計成果品閲覧可否の分析、情報公開の整理、入札日数比較の分析、  
段階選抜採用実績と分析、工事範囲の整理、競争参加資格要件の分析、技術提案課題の分析、オー  
バースペック防止策の検討、試行工事の分析、技術者不足対策の分析等を実施。

### (5) 地区事務所活動

○北海道事務所：開発局幹部（北海道、札幌市参加）・東日本高速北海道支社実務者・開発局実務者意見  
交換会実施。東日本高速北海道支社の要望による製作工場見学会の実施・開発局への技術講習会や各  
大学・高専への出前講座開催北海道開発技術発表会にて「インフラDX・i-Construction」取組を発  
表、鋼橋をアピール。土木の日パネル展等イベントへの参加。

○東北事務所：東北地整（局長・実務者）、秋田県広徳寺橋応急組立橋緊急復旧対応、EE東北ブース出  
展し鋼橋の魅力についてPR、地方自治体、各大学出前講座・技術講習会・高校生橋梁模型発表会参  
加。青少年のための科学の祭典 in 山形参加、学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2023参加。事務  
所総会の開催。東北地整 総合防災訓練への参加。東北地方工事安全施工推進大会（SAFETY2023）

への参加。東北地整管内現場 安全パトロールの実施。

- 関東事務所：関東地整・東日本高速、首都高速における幹部及び実務者クラス意見交換会を実施、群馬県との意見交換を実施、地方自治体や各大学・建コン等への出前講座・技術講習会・現場見学を実施、「東京橋と土木展」に出展し一般の方へ鋼橋の魅力をPR。
- 北陸事務所：第4回北陸橋梁保全会議の共催として運営・参加・実施、北陸地整意見交換会実施(パ-パ-ルス)、出前講座(富山大学・長岡技科大・長岡高専)で対面実施し鋼橋業界PR、技術講習会(新潟県・富山県・北陸道路研究会)実施、建設フェア参加、石川県要望書を提出し回答受領、建設技術報告会(オデ`マント`配信)参加。
- 中部事務所：中部地整、中日本高速、名古屋高速、静岡県意見交換会実施。技術講習会(愛知県・静岡県等)、出前講座(岐阜大・豊田高専)実施。「建設技術フェア2023 in 中部」に出展し、大学生や高校生に対し鋼橋の魅力をPR。
- 近畿事務所：近畿地整・西日本高速・阪神高速の幹部および実務者にて意見交換会を実施、建設技術展近畿・ふれあい土木・本四模型コンテストへ協会ブースを出展し鋼橋の魅力についてPR、技術講習会・出前講座・工場見学(近畿地整)・現場見学(建コン近畿)を実施。
- 中国事務所：中国地整意見交換会実施、「建設技術フォーラム in ちゅうごく」リアル展示会参加、山口大出前講座実施、技術講習会講師派遣(中国地整、管内5県、建コン中国支部)、虹橋配布による鋼橋普及・改善活動、広島県意見交換会。
- 四国事務所：四国地整意見交換会・技術交流会開催時に広報の取組みPR。徳島大学・愛媛大学出前講座。建コン協・PC建協との共同技術講習会。地整職員向け研修の中で、地整・自治体職員と橋建若手職員同士の意見交換を実施。建コン協向け現場見学会開催(川田工業多度津工場)。
- 九州事務所：九州地整(局長級・実務者級)・NEXCO 西-九州支社と意見交換会の実施、地方自治体への技術講習会や各大学への出前講座の実施、橋梁三力会の活動を継続し講習会を開催、九州建設技術フォーラム・土木の日への参加。
- 沖縄事務所：沖縄総合事務局意見交換会(幹部)、局・県・コンサル対象の技術講習会実施。琉球大学出前講座にて若い世代に鋼橋へ理解求める。直轄工事の特別調査の金額公表を認めていただく。鋼製橋脚不調対策を沖総と意見交換。基幹技能者講習開催⇒準備、手伝い対応、鋼製橋脚不採算と入札不調対策の意見交換開催対応。

### 3. 技術委員会

発注者、国総研、土研、大学、関連学協会との共同研究・委託研究、意見交換等を通して、鋼橋の市場拡大、多岐にわたる技術的課題の解決に取り組んだ。鋼橋DXを推進するDX推進特別小委員会では令和5年度BIM/CIM原則適用に対応して、建設コンサルタンツ協会と共同でBIM/CIMデータ連携の実装に必要なシステムを開発した。また、国道1号の静清バイパス落橋事故については、橋梁架設時の事故防止安全対策検討特別委員会に対応し、再発防止の対策として「鋼橋架設工事の事故防止対策<追補版2>」を発刊して会員各社へ周知した。以下に、技術委員会共通、各小委員会での活動内容を報告する。

#### (1) 技術委員会共通

新型コロナの影響も軽減されつつあり、対面とWEB会議システムの併用により活動した。次期道路橋示方書改定に向けた活動、発注者や大学への講師、委員の派遣、建設コンサルタントや日本鉄鋼連

盟等の関連団体との意見交換会を開催し、鋼橋の市場拡大に努めた。また、国土交通省に関しては、BIM/CIM推進委員会の各WGへ参加し、鋼橋の自動設計や生産情報の関係システム連携のために活動した。また、NEXCO各社からの各種依頼業務の対応は継続して実施している。以下に主な活動内容を示す。

- ① 設計・施工の道示改定及び各便覧改定の委員会、WGへの参画
  - ② 国交省BIM/CIMやi-Construction関連会議への参画
  - ③ 大学・高専(出前講座)、発注者の技術研修会への講師派遣
  - ④ 橋梁技術発表会の実行委員会としての企画運営及び講演
  - ⑤ 発注者要請に応じた、委員の現地派遣（豪雨被災橋梁等）や各種要領の意見照会対応
- 技術委員会からの発信情報を下記に示す。

◆技術資料：鋼橋架設工事の事故防止対策＜追補版2＞

◆論文等：土木学会年講7編（設計1、床版6）、構造工学論文集2編（床版2）、  
橋梁と基礎1編（設計1）

## （2）設計小委員会

性能評価・診断小委員会（次期道示改定）や品質保証小委員会（便覧改定）の活動が本格化し、多くの委員が各WGグループに参画し、頻繁に打ち合わせを行っている。また、それに関連する国総研、土研との共同研究も活発化しつつある。その他、橋建協テキスト「鋼道路橋計画の手引き」の改訂作業を進めるとともに、SBHS鋼材の活用方法についても検討を行った。以下に主な活動内容を示す。

- ① 性能評価・診断小委員会および品質保証小委員会各WGへの参画（日本道路協会）
- ② 耐久性向上のための高機能鋼材の道路橋への適用に関する研究への参画（土研、PC建協、鋼構造協会）
- ③ 道路橋の立体挙動を考慮した設計法に関する共同研究への参画（土研、国総研、建コン、P建、NEXCO総研）
- ④ 道路橋の性能評価技術に関する共同研究への参画（国総研、建コン、P建、日建連）
- ⑤ 鋼構造物架設設計施工指針改訂WGへの参画（土木学会）
- ⑥ 「鋼道路橋計画の手引き」の改訂作業
- ⑦ SBHS鋼材の活用に関する検討
- ⑧ BIM/CIM推進委員会、活用促進WGへの参画（技術調査課・国総研、建コン協、JACIC）
- ⑨ 鋼橋の更新や維持管理に関する研究への参画（NEXCO総研）
- ⑩ 阪神高速道路 鋼構造物検討委員会への参画（阪神高速、学識者）

## （3）製作小委員会

製作部会では、DXミルシートおよび材料立会検査の適正化の推進、物流の2024年問題に対する検討やSBHS700の施工性検討などを行っている。DXミルシートおよび材料立会検査の適正化については、一定の成果が得られたので、会員会社に当協会の方針を説明した。また、工場製作における遠隔臨場のガイドライン案を作成し、適用拡大に向け橋建協HPに掲載した。耐候性鋼橋部会では、耐候性鋼橋の経年調査および各種表面処理剤に着目した暴露試験体の経年調査を行い、技術的課題の整理を行った。防食部会も各種防食仕様の暴露試験体の経年調査を行い、その適用性などについて検討した。以下に主な活動内容を示す。

- ① 物流の2024問題に対する検討
- ② SBHS700の施工性検討（鉄連と共同検討）

- ③ DXミルシートおよび材料立会検査の適正化の検討（鉄連と共同検討）
- ④ 鋼橋の製作工場における遠隔臨場に関するガイドライン(案) の作成
- ⑤ 耐候性の点検手法および維持管理に関する調査・研究（琉球大学、国総研との共同研究）
- ⑥ 耐候性鋼材の腐食減耗量予測手法の国際基準化（ステンレス協会、鉄連他）
- ⑦ 九州・山口地区における耐候性鋼橋の調査・研究分科会への参画（九州橋梁・構造工学研究会）
- ⑧ 3Dプリンターを用いた、新たなさびサンプルの検討・試作
- ⑨ 塗装や溶射などの暴露試験による防食技術に関する調査・研究
- ⑩ 塗装ガイドブックおよび溶射ガイドブックの改訂
- ⑪ 日本道路協会の性能評価・診断小委員会および品質保証小委員会への参画
- ⑫ 沖縄地区鋼橋防食マニュアル検討委員会への参画

#### (4) 架設小委員会

7月6日に国道1号の静清バイパスで落橋事故が発生し、これを受け橋梁架設時の事故防止安全対策検討特別委員会が設置された。多くの架設小委員会メンバーが参画し、セッティングビームを使用した横取り降下の事故防止対策について議論し、鋼橋架設工事の事故防止対策<追補版2>として取り纏め、公式ウェブサイト上で一般に公開した。また、これらの対策に関する各機関との意見交換を行った。以下に架設工事技術者および技能者の育成・確保の促進、安全施工を目指した主な活動内容を示す。

- ① 登録橋梁基幹技能者の育成・確保を目的とした認定講習会および資格更新の継続実施
- ② 建設マスターおよび建設ジュニアマスターの応募推進
- ③ 橋梁特殊工の就労者調査の継続実施
- ④ コンサル技術交流促進WG架設部会現地研修会の実施（建コン協）
- ⑤ 工事現場業務の効率化推進WG会議への参画（中部地整・中国地整）
- ⑥ DX推進特別委員会 架設WGへの参画
- ⑦ 事故防止安全対策検討特別委員会への参画
- ⑧ 「鋼橋架設工事の事故防止対策（追補版）」の補足資料（実務上の基本的な考え方）作成。
- ⑨ 「鋼橋架設工事の事故防止対策(追補版2)」発刊
- ⑩ 鋼構造架設設計施工指針」改訂委員会への参画（土木学会）
- ⑪ 「鋼道路橋計画の手引き」の改訂作業

#### (5) 床版小委員会

R C床版、合成床版、鋼床版のさらなる品質向上、および直面する課題である、合成床版の性能評価と維持管理手法、床版取替え、鋼床版の疲労対策等に関して、官学共同で調査研究を行った。また、コンクリート系床版の損傷状況の調査を開始した。以下に主な活動内容を示す。

- ① 日本道路協会対応（道路橋床版防水便覧の改定、道路橋示方書の改定、継続）
- ② 合成床版の性能評価法の研究
- ③ 道路橋床版の凍害調査
- ④ コンクリート系床版の損傷状況調査
- ⑤ 合成床版の設計法に関する解析的研究（横浜国大）
- ⑥ 手引き改訂資料の作成（PC床版、I形鋼格子床版）
- ⑦ 床版取替え工法の研究
- ⑧ コンクリート打重ね時間間隔の検討

- ⑨ 合成床版およびP C床版の施工実績調査とまとめ
- ⑩ 岐阜大学ME（メンテナンスエキスパート）養成講座の講師対応
- ⑪ 鋼床版の疲労損傷メカニズムの解明と高耐久性鋼床版構造に関する研究（法政大）
- ⑫ 取替え鋼床版と主桁との接合方法等に関する研究（法政大）

#### (6) DX推進特別小委員会

国交省が提唱している令和5年度BIM/CIM原則適用に呼応し、4月18日に建コン協と橋建協で鋼橋のデータ連携実装に向けた共同宣言に署名し、両協会ですデータ連携活用検討WGを設置して活動した。今年度も国交省のBIM/CIM推進委員会へ参画し、ICTを活用した鋼橋事業および協会活動の進화를提案・推進した。以下に、主な活動内容を示す。

- ① 「i-Bridge 適用工事制度」の運用
- ② 国交省のBIM/CIM推進委員会への参画
- ③ 鋼橋のデータ連携実装に向けた共同開発
- ④ DXミルシート（電子ミルシート）の活用に向けた抽出ソフトの開発
- ⑤ 鋼橋の製作工場における遠隔臨場に関するガイドライン（案）の作成
- ⑥ 作業員の高度モニタリングシステム「Safe-Tracker」のアプリ更新
- ⑦ 床版施工のDX関連技術の調査
- ⑧ 災害時の鋼橋の点検を効率化するシステム「B-map」の試行
- ⑨ 講習会への講師派遣、新聞・雑誌への投稿

## 4. 保全委員会

### (1) 事業の重点課題

昨年度に引き続き、国交省との制度変更協議や、高速道路会社（NEXCO3社、首都高速および阪神高速など）の具体的な課題について、保全委員会内の自由討議という形で検討・整理を行った。発注者との意見交換会では、保全事業の環境整備のため、昨年度までの要望事項である技術者の有効活用に加えて、概略数量での発注、システム足場の積極的な採用を要望した。

昨年度から開始したNEXCO3社との「対話の会」について、発注者、施工者それぞれの立場を尊重しつつ保全事業が魅力ある事業となるよう、今年度も継続して活動した。

### (2) 具体の活動報告

#### 1) 適正な入札・契約制度

「適正な工事発注区分」、「適正工期」、「間接費」、「条件明示」について要望し、保全工事の環境整備に向けた活動を行った。建設コンサルタンツ協会との活動成果である「今後の橋梁保全事業のあり方に関する懇談会報告書」の修正が完了した。1)保全事業特有な課題を踏まえた設計、施工に関わる技術基準類の整備、2)事業の円滑な推進を図るための連携（契約等）の促進、3)保全事業における積算（設計、施工）の適性化の3点を提言しており、各地方整備局との意見交換会等で紹介した。

#### 2) システム足場の採用の促進

従来足場に代わりシステム足場を採用した場合の設計変更について要望した。安全性や作業効率の向上について関東地整と作成した資料を用いて他地整へ要望を行った。

#### 3) 高速道路会社の保全工事の環境整備

NEXCO3社の保全工事が各社にとって魅力ある事業となるよう、保全委員会内部での自由討議

を重ねると共に、NEXCO3 社との「対話の会」で協議を進めた。具体的には工程・工期、設計に関して協議した。来年度以降は NEXCO3 社に限らず、他の発注者とも対話の場を設け、受発注者の良好な関係を構築していきたい。

#### 4) B-map システムの改良

D X 推進特別小委員会の活動の一環として、災害時橋梁点検を効率化するためのシステム「B-map」の改善を行った。国の道路データプラットフォーム「xROAD」の一環である「全国道路施設点検データベース」との連携を昨年度末に実施したが、今年度は震災を想定したシステム運用訓練、マニュアルの作成を行った。当初システム構築時に想定していなかった問題や新たな要望等もみつかったため、来年度も引き続き改良を行っていきたい。

#### 5) 共同研究

国総研と 2 つの共同研究「施工管理記録の維持管理への活用に関する共同研究」「鋼橋の性能評価、回復技術の高度化に関する共同研究」を引き続き行った。また、土研とは「支承の損傷に関する共同研究」に加えて「異種材料を活用した鋼橋の合理的な性能回復技術の開発に関する共同研究」に参画した。NEXCO とは「鋼橋の更新や維持管理に関する研究」を進め、保全工事の環境整備とあわせて関係機関との良好な関係を維持した。

#### 6) 保全工事の魅力の伝達

保全工事の従事者数の増加や各社のリクルート対策のため、鋼橋や保全工事の魅力を伝える活動を広報委員会と協力して行った。

### 5. 品質・環境委員会

#### (1) 品質・環境委員会活動について

令和 5 年度は、「品質月間活動」及び「品質・環境委員会セミナー」を通して人材の育成と品質・環境の向上を目指して活動を行った。令和 4 年度に収集した鋼橋工事で会員各社が経験した設計、製作、架設の失敗体験を、トラブル事例として取りまとめるとともに、セミナー用のパワーポイントを作成した。会員各社の品質向上・人材育成活動として、10月に会員各社にトラブル事例の配布を行い、3月に「品質・環境委員会セミナー」を開催した。

品質・環境委員会セミナーの内容は以下の通りである。

##### 1) トラブル事例の整備

技術委員会メンバーから設計・製作・架設の失敗事例を収集し、所定の様式に失敗の現象・原因・対応をまとめトラブル事例として整備した。

##### 2) トラブル事例等のパワーポイント作成

最新のトラブル事例及びアドバイス資料等をパワーポイントで作成し、会員用のホームページへ登録した。

##### 3) 品質・環境委員会セミナーの開催(CPDS 4ポイント付与)

以下の内容でセミナーを開催した。

【日時】 令和 6 年 3 月 13 日 (水) 13:00～

【場所】 橋建協 会議室

## 【内容】

### ① トラブル事例関連

- ・ 橋建協 HP からトラブル事例集へのアクセス方法
- ・ トラブル事例（設計・製作・架設）の原因と対策+ワンポイントアドバイス

### ② 特別講演

テーマ：「JIS 認証制度と違反事例、違反予防について」

講師：（一財）建材試験センター 製品認証本部 佐伯 智寛 様

## (2) グリーン化推進 WG 活動について

カーボンニュートラルへの取組について、令和3年12月に「グリーン化推進 WG」を立ち上げて、2050年のカーボンニュートラルに向けて、協会として取組を検討してきた。

その成果として「カーボンニュートラルへの取組み方針」を策定し、令和5年7月に協会HPで公開した。また、「循環型社会への架け橋 カーボンニュートラルの取組みを推進します」と題したパンフレットを発行した。

## 6. 安全委員会

令和5年度、安全委員会では、以下の重点課題を掲げた。

- ① 重篤災害・死亡事故ゼロ達成に向け具体的な行動を展開する。
- ② 安全管理水準の向上を促進する。
- ③ 発注者と共に創る安全に向けた活動を展開する。
- ④ 安全委員会は、各社共有の安全組織となる。

今年度は、コロナが落ち着きを見せる中、安全委員会では上記重点課題を掲げ安全活動を推進してきた。しかしながら、令和5年の労働災害に関する安全成績は、これまでにない非常に残念な結果となった。休業4日以上の労働災害は12工事・18件（令和4年 5工事・5件）、そのうち墜落・転落災害が8件（令和4年 1件）、また重大事故が連続発生し、死亡者は4名（令和4年 0名）となった。

7月6日に発生した静清バイパスの橋桁落下事故は、死者2名と重傷者5名が被災する重大事故となった。また、関東地整管内2工事での墜落による死亡事故が、5年ぶりに発生した。

これより、安全委員会の労働災害防止に向けた啓発促進の課題は未だ道半ばであることを痛感するとともに、「仲間の命を守る」を合言葉にすることを改めて確認した。安全委員会では、労働災害の連鎖を断ち切るため、発生した事故・災害に対して、原因究明と対策および再発防止の注意喚起をとりまとめ、会員各社等に向け迅速な発信に努めた。

安全委員会の例年の安全活動に加え、負の連鎖防止の安全活動等、令和5年度に実施した主な活動実績を、以下に報告する。

### (1) 安全委員会共通

- ・ 第28回安全責任者連絡会総会・安全研修会を開催（令和5年6月22日）。
- ・ 令和5年度の橋建協重点活動テーマの中で、現場安全対策の取組みとして、①桁落下防止対策（含墜落事故）、②新型足場構造（システム足場）の採用、③モニタリング技術を活用した安全性向上、を掲げ活動。国直轄局、道路会社との意見交換会に出席。
- ・ 安全祈願を伊勢神宮で執り行う（令和6年2月9日）。
- ・ 安全委員会表彰制度に基づき、安全推進優良職長14名を安責者総会で表彰。

- ・登録橋梁基幹技能者認定講習会（5回開催）に安全講師を派遣。
- ・各発注者等から要請のあった、安全講習への講師派遣、安全パトロール、安全大会等の安全活動に参加。
- ・鋼橋工事災害防止の安全管理の徹底について（令和5年5月11日 野上委員長）を要請。
- ・鋼橋架設工事の安全点検について（令和5年7月6日 鎌屋委員長）を要請。
- ・事故防止安全対策検討特別委員会に参画し、「鋼橋架設工事の事故防止対策<追補版2>」の策定、周知。
- ・墜落災害防止に関する安全点検と安全措置の実施について（令和5年8月10日 鎌屋委員長）を要請。
- ・墜落災害撲滅に向けた橋建協統一行動の確実な実施について [統一行動再活性化へのポスター配布]（令和5年12月吉日 鎌屋委員長）を要請。

## （2）安全東日本部会

- ・自主パトロールとして東北地整管内での稼働中現場（6橋）の一斉パトロールを実施（令和5年10月24日～11月24日）。
- ・中部地整管内の鋼橋工事現場において、発注者との合同安全パトロール、愛知国道事務所で安全研修を実施（令和5年12月18日）。
- ・前年発生した災害を教材資料としてまとめた「わかりやすい災害資料」をSD配布。災害データベースに登録。
- ・鋼橋建設技術者安全衛生講座（工事計画参画者コース）に安全講師を派遣。
- ・高所作業車の昇降ステップ等の改善案を日本建設レンタル協会等に継続要望。
- ・関東地整管内の鋼橋工事現場において、発注者との合同安全パトロール、国交省管轄見学所で安全研修を実施（令和6年2月19日）。

## （3）安全西日本部会

- ・施工中と完成写真、イラスト、安全標語を募集、選考、安責者総会で表彰。編集した安全ポスターを会員各社に頒布。
- ・安全衛生Q&Aの改訂（令和5年度版）（「なぜ墜落災害を撲滅できないか」等の項目を追加し、200の疑問に答える）（令和6年3月）。
- ・阪神高速道路、福北高速道路、名古屋高速道路からの要請により、安全査察員を派遣。
- ・中部地整北勢国道事務所管内の稼働中現場（4橋）での発注者との合同安全パトロールを実施（令和5年7月14日）。
- ・自主パトロールとして中部地整北勢国道事務所管内での稼働中現場（2橋）で安全パトロールを実施（令和5年12月11日）。

## 7. 海外事業委員会

### （1）概況

コロナに関する制限が緩和されたことから本来の活動を推進・実現することができた1年間であった。海外市場における鋼橋の需要創出及び数年後の案件形成に向け積極的な活動を行った。

## (2) 活動実績

(ア) コロナ禍にて中止していた協会としての海外視察団を再開し、トルコにおける長大橋プロジェクトの視察及び世界道路会議（PIARC）プラハ大会への参加並びに協会としてのブースの出席を行った。会長、両副会長以下、協会参加企業及び事務局から総勢22名が参加し、海外事業に関する興味を深めるといった面も含め有意義な視察となった。

(イ) 海外市場の開拓に資するべく国内の優れた技術に関する知見を深めるため国内の現場視察を行った。協会参加企業各社の海外事業委員以外の方と事務局の方も含めた20名により東扇島の斜張橋現場及び首都高1号線の改築工事の現場を視察、有意義且つ盛況に実施することができた。

(ウ) 海外事業委員会としての海外視察団も再開し、カンボジア及びフィリピンを訪問した。

### ・カンボジア：

国建協との共同案件形成活動において得た同国において中国企業が活発に活動しているとの情報に基づき、中国企業が施工した橋梁の視察及び適用技術の研究を行った。また植野大使、讚井 JICA カンボジア事務所長他とご面談し PR 資料を用いた鋼橋に関するプレゼンと同国における ODA の供与方針他についてヒアリングを行った。

### ・フィリピン：

今後数年内に発注が予想されるサンファニコ橋及び第4マクタン橋の現場視察を行った。また今後渋滞の激化が予想されるバンバン橋と約15年前に完成したスービック・クラーク・ターラック高速道路の耐候性少数鉸桁橋の視察も行った。今後本視察によって得た現地状況に基づき、施工者の視点も踏まえつつ関係者への提案を行い、鋼橋需要の最大化と施工の円滑化を目指す。越川大使、坂本 JICA フィリピン事務所長他とご面談し PR 資料を用いた鋼橋に関するプレゼンと同国における ODA の供与方針他についてヒアリングを行った。

(エ) 昨年度準備した在外大使館の国交省アタッシュエ他の方々を対象とする PR 資料により、国交省総合政策局海外プロジェクト推進課にご協力頂き、WEB 会議にてプレゼンを行った。また、同資料により、(一社)国際建設技術協会（国建協）にご協力を頂き、ODA に携わるコンサルタントに対しても WEB 会議にてプレゼンを行った。

また、同 PR 資料の英語版を作成し国交省アタッシュエやコンサルタントの方々にも共有した。

(オ) 国交省及び JICA による案件説明会について委員会にて共有をした。

## IV. 特別委員会の活動報告

### 1. 働き方改革特別委員会

#### (1) 設立の経緯

- ・2017年3月28日 政府が「働き方改革実行計画」を策定。
- ・2017年11月30日 橋建 働き方改革 WG が「働き方改革に向けた基本方針」を策定。  
(その後 同 WG は解散して毎年の意見交換会で発注機関へ状況報告・要望を継続)
- ・2023年6月9日 働き方改革特別委員会が設立（第71回理事会承認）。

#### (2) 設立の目的

2024年4月からの働き方改革諸規則の厳格適用に向けた対応強化を図ることを目的とし、短期的な活動としては目標実現の妨げとなる事項について発注機関に改善要望することを主とする。

(特に昨年度末時点で目標との乖離が大きい高速道路会社に向けた発信に注力する)

### (3) 主な活動状況

主な活動として、4週8休の達成率が不十分である高速道路会社工事での改善を図るべく、会員会社へのアンケート調査を実施の上、企画委員会(高速道路WG)・広報委員会と協力して以下の4項目に分類して要望書をまとめ、高速道路会社意見交換会にて提示した。

- ① 現地施工条件
- ② 書類及び検査
- ③ 設計及び製作
- ④ 入札及び積算

NEXCO 3社は日建連と先行して意見交換～検討会を実施しているが、共通した要望が多いことから、橋建としてはその動向を把握しつつ、NEXCO 3社の実務者との継続的な検討会を予定する。

## V. 受託業務

今年度の新規受託業務なし。

## VI. 出版物発行業務

鋼橋に関する出版物を発行し、各関係機関及び会員等への鋼橋PRを推進した。

- (1) 橋建協が発行する協会誌「虹橋」87号を発刊し、「特集1：鋼橋におけるDX推進への取組み」、「特集2：この橋を見よ！～沖縄の橋～」等の記事を掲載した。
- (2) 令和3年度内に完工（架設完了）した鋼橋の写真、概要等を記載した「橋梁年鑑（令和5年度版）」を発行した。

## VII. 登録橋梁基幹技能者講習業務

定款第4条（3）橋梁建設に関する啓発宣伝に基づき、橋梁架設現場における基幹技能者の育成を目的として、建設業法施行規則（第18号の3第2項）による国土交通省の登録を受けて、登録橋梁基幹技能者講習を実施した。講習は新規に資格を取得する者に対して「認定講習」を実施した。

- (1) 令和5年10月24日（火）～27日（金）、11月7日（火）～10日（金）、11月28日（火）～12月1日（金）、12月12日（火）～15日（金）、令和6年1月23日（火）～26日（金）の各4日間、計5回の登録橋梁基幹技能者講習「認定講習」を実施した。
- (2) 今年度の試験合格者は95名。建設業振興基金のデータベース登録者数は974名となった。  
(令和6年3月31日現在)

## VIII. 技術開発業務

- (1) 電子ミルシートから鋼材の情報を抽出・利活用することで、鋼材管理や予熱管理などの管理業務の効率を飛躍的に向上させる。これを『DXミルシート』と呼び、DXミルシートを定着させていくために、ミルメーカー3社に対応するデータ抽出ソフトを開発した。

- (2) データ連携活用検討WGを設置して、鋼橋のデータ連携実装に向けた共同開発に進めた。今年度は、  
 飯桁の「設計情報属性ファイル」を実装し、データ連携確認テストを実施した。
- (3) 災害時橋梁点検を効率化するための「B-map」システムについて、運用の試行と改良を行った。

## IX. 「橋の相談室」業務

令和5年度の総相談件数は令和6年3月末段階で、429件（平均36件／月）あり、相談室の技術顧問が対応処理した守秘を要する個別案件およびそれに準ずるものは285件（平均24件／月）であった。

285件の内訳として、相談内容は架設に関するものが最も多く25%であった。相談依頼者はコンサルタントが73%、地方自治体が13%、国交省が2%という割合であった。

表1－「橋の相談室」相談内容内訳

相談内容	件数	割合 (%)
設計	60	21
製作	19	6
架設	71	25
保全	40	14
防食	14	5
床版	8	3
積算	22	8
その他	51	18
合計	285	100

## X. 事務局

- (1) 「働き方改革に向けた基本方針」に基づく長時間労働の調査報告による、時間外労働時間の上限規制値（自主目標値）のフォローアップの実施。
- (2) 令和5年度の受注量を4半期毎に集計・報告。

以上